

## カンガルーシップ活動 共生プロジェクト 実施報告書

|          |               |
|----------|---------------|
| 報告日      | 2015. 3. 10   |
| 主管学校名    | 高知大学教育学部附属幼稚園 |
| P T A会長名 | 本山 幸一         |

|      |       |   |
|------|-------|---|
| 実施概要 | 主管校   | 高知大学教育学部附属幼稚園                                       |
|      | 交流校   | 高知大学教育学部附属特別支援学校                                    |
|      | 実施活動名 | 親子餅つき   |
|      | 実施日時  | 平成 28 年 1 月 14 日 9:00~12:00                         |
|      | 実施場所  | 高知大学教育学部附属幼稚園                                       |
|      | 実施目的  | 幼稚園の親子と特別支援学校の生徒との交流                                |
|      | 実施内容  | 特別支援学校高等部の生徒に餅を搗いてもらい、幼稚園の親子も一緒に餅つきをし、食べる。          |
|      | 実施方法  | 特別支援学校高等部の生徒に餅をほぼ仕上げまで搗いてもらい、その続きを幼稚園の親子で搗く。        |
|      | 参加人数  | 高知大学教育学部附属幼稚園園児・保護者 110 組      特別支援学校高等部 6 名・教師 3 名 |

|      |    |   |
|------|----|---|
| 報告事項 | 内容 | 高知大学教育学部附属幼稚園の親子餅つきで 2 臼のうち 1 臼を、附属特別支援学校の高等部 1 年生にほぼ仕上げまで搗いてもらい、その続きを附属幼稚園の園児の親子が搗いた。特別支援学校の生徒が餅を搗くときには、園児も一緒に掛け声をかけたり、力強い搗き方に見入ったりし、搗きあがると「ありがとう」とお礼を言った。その後、出来上がった餅を園児は親子であんこや黄粉、チーズ、のり、醤油等（材料費の一部は附属幼稚園行事費）と一緒に食べ、特別支援学校の生徒は先生と一緒に同様に食べた。 |
|      | 結果 | 附属特別支援学校は、大学の敷地内にあり、附属幼稚園とは離れている（車で 20 分程度）。そのため、日頃は交流する機会がほとんどないが、親子餅つきでは、子どもだけでなく保護者も間近に特別支援学校の生徒を見ることができ、また、特別支援学校の生徒の得意とする餅つきを見ることで、特別支援学校の生徒への親しみや理解、交流が深まったと思われる。   |
|      | 所感 | 幼稚園の園児も保護者も特別支援学校の生徒と、よい交流の時をもてたと思う。皆、楽しそうだった。特別支援学校の生徒さんも喜んで餅を搗いたり食べたりしていた。  |

|      |           |
|------|-----------|
| 添付書類 | 領収書 写真 感想 |
|------|-----------|



## カンガルーシップ活動 共生プロジェクト参加感想

|     |                  |    |  |
|-----|------------------|----|--|
| 提出日 | 平成 28 年 3 月 10 日 |    |  |
| 学校名 | 高知大学教育学部附属幼稚園    |    |  |
| 学年  | 年長・年少            | 氏名 |  |

- ・蒸したお米が、ご飯みたいで、匂いはお餅みたいだった。
- ・友達と 2 人で一緒にお餅をついて（1 つの臼に 2 本の杵で）、楽しかった。
- ・本当のお餅をつく前に、先生が作ってくれたお部屋で臼と杵を練習したので、本当のお餅つきがとても楽しみだった。上手につけたよ。（おもちつきの後数日、お部屋でのおもちつきごっこが楽しく続いた）
- ・お兄さん達（特別支援学校の生徒さん）がおもちをつくのが上手だった。

## カンガルーシップ活動 共生プロジェクト参加感想

|     |               |
|-----|---------------|
| 提出日 | 2016. 3. 10   |
| 学校名 | 高知大学教育学部附属幼稚園 |
| 氏名  | 園保護者          |

- ・特別支援学校の生徒さんが、ゆっくり丁寧に餅をついている姿を見ることができて、ふだん交流がほとんどない特別支援学校の生徒さんのことが少しでもわかって、保護者にとってもよい経験となった。
- ・前の日に自分たちであったもち米が、窯で蒸されることで、ご飯のようになり、いつものご飯とは少し違う匂いもして、興味をもったようです。そして今年は1つの臼を2人で1本ずつ杵を持って一緒につき、だんだん餅になっていく様子を見ることができ、力や息を合わせてつく楽しさが味わえてよかったです。
- ・特別支援学校の生徒さんと一緒に食べることはできなかったけれど、ついている様子を見たり、搗いてもらった後に「ついてくれて、ありがとう」と言ったりして、少し身近に感じられてよかった。